



子宮体がんが増えています

— 4月9日は子宮の日 —

企画：
日本医師会

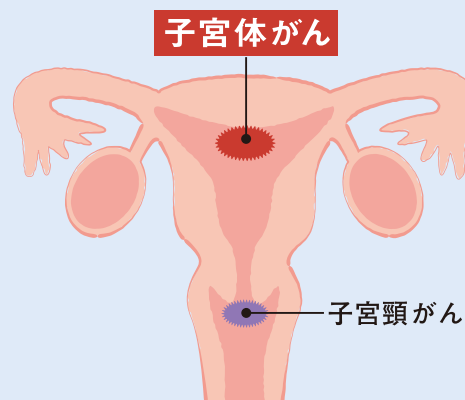
No. 433

指導：東北大学産婦人科 教授 八重樫 伸生

子宮体がんとは？

子宮にできるがんは、子宮頸がんけいと子宮体がんの2種類があります。

このうち、子宮体がんは、子宮の奥に悪性腫瘍ができる病気で、子宮内膜がんとも呼ばれ、最近、わが国の中高年女性に増えてきています。また、稀に若い女性にも発生します。



不正出血に気をつけて

患者が増えている理由として、女性のライフスタイルの変化があげられます。

子宮体がんは、卵巣から分泌される卵胞ホルモン(エストロゲン)が関係するといわれており、肥満や脂肪分・コレステロールの多い欧米化した食生活、ストレスによる生理不順や晩産化・未産率の増加などによって、その分泌が長く続く状況が原因の一つと考えられています。

子宮体がんの代表的な症状は、不正出血です。閉経を迎える前後の女性で気になる症状があるときは、なるべく早く受診をしてください。

心当たり
ありませんか？

肥満

欧米化
した
食生活

ストレス
による
生理不順

不正
出血

出産機会
の
減少



子宮体がんの検査を受けるには

通常、子宮がんの検査といえば、子宮頸がんの検査となります。

原因になりそうなライフスタイルなど心当たりのある方で、子宮体がんの検査を受けたい場合には、かかりつけ医に相談しましょう(子宮頸がんの検査の際に、自己負担で追加することもできます)。